

研究だより No. 9

押水第一小学校

令和4年 10月14日

10月13日 1年研究授業(九笹先生)より

九笹先生に国語科「くじらぐも」の授業をして頂きました。整理会で成果・課題・改善策について中能登教育事務所指導主事の石井先生より助言をいただきました。

視点1: 叙述や挿絵を指し示しながら自分の考えを発表し交流することで、何について考え、話し合っているのかを明確にし、全員が学習に参加できるようにする。

成果	<ul style="list-style-type: none">・学習規律がしっかりと定着していて、リレー発言や、児童同士でつなげて発言することができていた。・叙述や挿絵を指し示しながら自分の意見を発表することができた。・板書の工夫（吹き出しの大きさ、挿絵の提示、ジャンプの高さの例）などが見られ、想像を助ける手立てになっていた。・効果的な繰り返し発問で、児童の考えを深めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・発表した児童と教師の1対1で繰り返しが行われていた。・本文（音読の工夫）の活用（個人⇄全体）ができればよかった。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・児童同士のつぶやきや意見を、全体で共有できるようにする。

視点2: 1時間の終末で、本時学習したことを音読で表現させる。そのために、児童が音読を工夫できるような授業構成にする。そして、音読で工夫できたことを、ふり返りに書きためていく。

成果	<ul style="list-style-type: none">・教科書に線を引き、chromebook に音読の工夫を考え、アナログと ICT を併用し、児童の考えを深めることができた。・1時間の授業の中ではじめとおわりに音読を入れた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・音読の工夫を chromebook に書き込んだが、終末の音読では教科書で音読していた。学習が活かしていない。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・個々の考えを終末の音読で活かせるように、ICT 端末を見ながら音読できるようにする。

明日から全員が実践すること

◎単元のねらいや1時間の授業のねらいを焦点化し、活動していく。
(知・技なのか、思判表なのか)